



三ツ星ベルトの基本理念：

人を想い、 地球を想う

“ESG”や“サステナビリティ”などの言葉がまだ一般的ではなかった1999年、三ツ星ベルトは会社の心のよりどころとなるこの基本理念を制定しました。

環境や社会に対する企業の果たすべき役割がより大きくなった今、私たちは改めてこの基本理念のもと、三ツ星ベルトの果たすべき役割と存在意義を見つめ直し、社会への貢献と当社に係る全てのステークホルダーの皆さまとのエンゲージメントの向上に努めてまいります。

CONTENTS

01 ミツ星ベルト・ブランドストーリー

ミツ星ベルトのあゆみ	4
事業概要	5
理念体系	6
トップメッセージ	8
ビジョンと戦略 ～'21中期経営計画	11

02 ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制	18
マテリアリティ	19
ESGに係るこれまでの取り組み	21

03 E：環境

基本方針と活動実績	23
環境ガバナンス体制	25
脱炭素社会実現に向けた取り組み	27
TCFD提言に基づく情報開示	31
資源循環社会の実現に向けた取り組み	36
生物多様性保全の取り組み	42
環境データ	45

04 S：社会

基本方針と活動実績	49
人財戦略	50
人権の尊重	55
バリューチェーンマネジメント	56
社会貢献活動	62
社会データ	66

05 G：ガバナンス

コーポレートガバナンス	69
コンプライアンス	73
リスクマネジメント	74
ガバナンスデータ	78

06 Appendix

79

■ 編集方針

当レポートは、E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)を主とした社会課題に対する当社の考え方およびそれに伴う各種取り組みの詳細について報告するものです。

当レポートの発行を通して、ステークホルダーの皆さまにミツ星ベルトグループへの理解を深めていただき、より一層のエンゲージメント向上を目指したと考えております。

■ 報告対象範囲：

ミツ星ベルト(株)を主とした国内外連結対象のグループ会社
ただし、ご報告の内容ごとに対象範囲が異なる場合は、都度その対象範囲を記載しています。

■ 報告対象期間：

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)
ただし、一部上記期間外の内容を含めています。

■ 発行時期：

2023年9月

■ 参考にしたガイドライン：

- > GRIスタンダード
- > 環境省「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(ver.2.5)」

■ 将来情報に関する注意事項

当レポートには、不確実性を含んだ将来の業績に関する見通しなどが記載されています。現時点での情報に基づく分析により将来の業績などの見通しを記載していますが、これらはその結果を保証するものではなく、実際の業績が当レポートに記載の見通しと異なる可能性があります。

三ツ星ベルトのあゆみ

三ツ星ベルトは、工業用ベルトの専業メーカーとして1919年神戸で創業し、たゆまぬ研究と開発を重ねて、業界のリーディングカンパニーへと成長してまいりました。

防水・遮水材、エンジニアリングプラスチック、電子材料の製造などに業容を拡大した今も「品質を作り、品質を売る」という創業からの“モノづくり”の精神は連綿として受け継がれ、お取引先様より厚い信頼をいただいています。

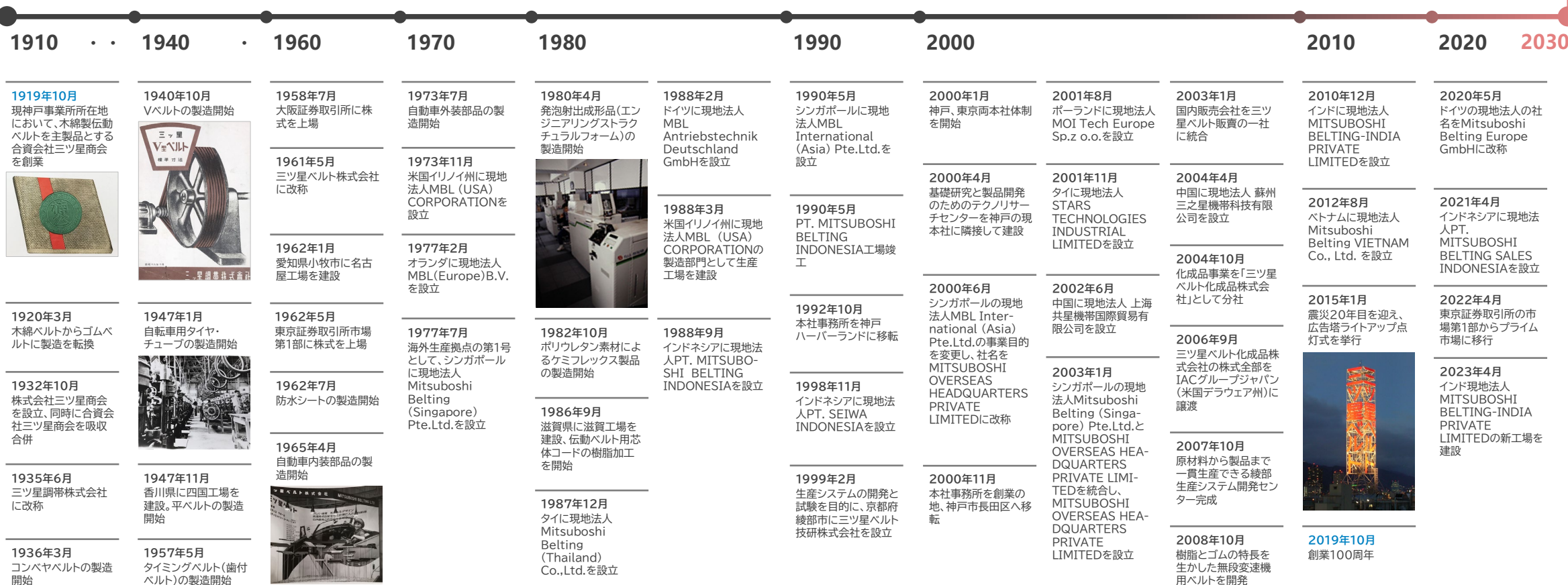
社会に対する企業の果たすべき役割が大きく変化した現代においても、ESG課題の解決を事業活動の前提条件として捉え、創業からの“モノづくり”の精神による革新的な製品の開発・提供を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

2030年の“ありたい姿”

「変化にぶれない強い企業体質の確立」

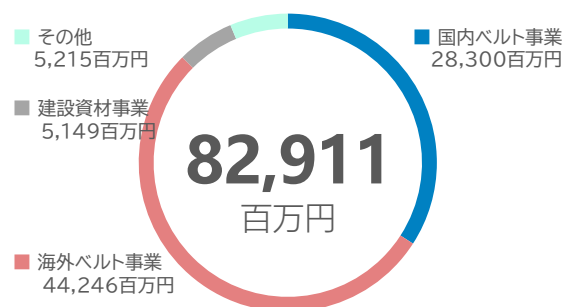
「人を想い、地球を想う」基本理念のもと、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献できる企業づくりを推進し、全てのステークホルダーに信頼される経営を目指します。

□ P.11 [「ビジョンと戦略」](#)

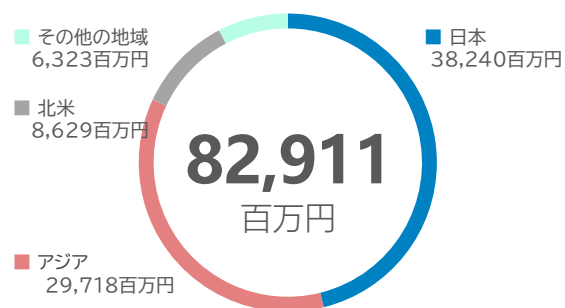


事業概要

販売の状況(連結会社、セグメント別)



販売の状況(連結会社、地域別)



国内・海外ベルト事業

当社の主力事業であるベルト事業では、自動車用ベルト、一般産業用ベルト、OA機器用ベルト、搬送用ベルトなどを国内外に広く販売しております。

当社の製品が使用される業界・機器は非常に広く多岐に渡っており、主力販売先である自動車産業では、乗用車、商用車のほかスクーターなどの二輪車やスノーモービル、多用途四輪車などにも当社製品が使用されています。一般産業市場においては、農業機械、工作機械、射出成形機、産業用ロボット、OA機器、金銭機器(ATMなど)、洗濯機をはじめとする家電のほか、風力発電機などにも当社製品が使用され、三ツ星ベルトの製品が今日も世界中のあちこちで私たちの暮らしを支えています。

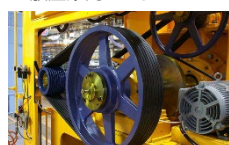
自動車・二輪・建機用伝動ベルト



主な製品

- > タイミングベルト
- > Vリブドベルト
- > アクセサリドライブシステム
- > 変速ベルト
- > ローエッジVベルト
- > ウォームホイール

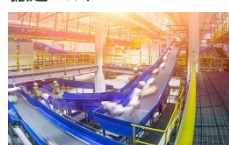
一般産業用ベルト



主な製品

- > 一般産業用Vベルト
- > 農業機械用Vベルト
- > 一般産業用タイミングベルト
- > リブスターベルト
- > ウレタンベルト
- > プーリ、カップリング など

搬送ベルト



主な製品

- > 搬送用樹脂ベルト Tailorbelt® 各種
- > 樹脂タイミングベルト フリースパン®
- > ゴムコンベヤベルト START®
- > 搬送システム製品
- > ふるい分け用ウレタン網

建設資材事業

建設資材事業では、建築用防水シート・土木用遮水シートおよび関連製品の製造・販売、施工を行っています。

学校、集合住宅、工場など、様々な場所に当社の防水材が使用されており、また、土木部門では、廃棄物処分場などに当社の遮水シートが使用されています。優れた遮水性を有する当社製品を使用することにより、廃棄物から漏出する環境負荷物質を土壌に浸透させないことから、地球の環境保全にも大きく貢献しています。

その他

設備機械、他社仕入商品、エンジニアリングプラスチック素材・加工、SF(発泡射出)成型品、電子材料、サービス事業のセグメントです。当セグメントには、金属ナノ粒子を応用した新製品なども含まれています。

> エンジニアリングプラスチック素材・加工:

金属部品から代替可能な強度と耐熱性を兼ね備え、食品業界、建機・重機業界、環境(水・汚泥・粉塵処理)業界など、幅広い業界・設備で使用されています。

> SF(発泡射出)成型品:

厚肉成形でありながら軽量化が図れることから、板金やダイカスト等の金属部品からの置換えが可能です。また、一般射出成形と比較してヒケ、ソリ、ひずみなどが非常に少なく、自由度の高い設計の実現に貢献しています。

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

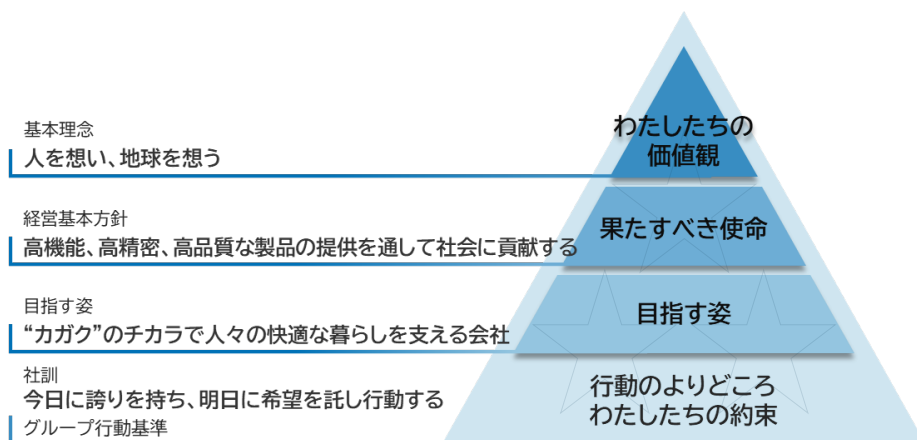
コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

三ツ星ベルトの理念体系（1/2）



環境や社会に対する企業の果たすべき役割がより大きくなった現在において

三ツ星ベルトグループが社会の中でどのような価値を提供するために存在するのか、

そして私たちが誇るべき“当社らしさ”とは何なのか。

私たち三ツ星ベルトグループは、

全てのステークホルダーの皆様とこれら価値観を共有し、

次の100年先にも“選び、選ばれる”企業であることを目指しています。

■ わたしたちの価値観

基本理念：人を想い、地球を想う

企業理念『人を想い、地球を想う』は、“ESG”や“サステナビリティ”などの言葉がまだ一般的ではなかった1999年に、“会社の心のよりどころ”として制定されました。“人を想い”には、当社の事業活動に係る全ての人の人権や人格、個性を尊重し、また、従業員一人ひとりのそれら個性が十分に発揮される組織でありたい、との想いが、そして、“地球を想う”には、わたしたちが暮らしを営むこの地球の気候、水、生物多様性などの環境を守り、持続可能な社会を実現したい、との想いが込められています。基本理念『人を想い、地球を想う』は、次の100年もサステナブルに社会に貢献し続ける企業であるための、私たちの大切な不変の価値観です。

■ 果たすべき使命

経営基本方針：

高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する

“真心のこもった商品を作れ”－これは、1919年の当社創業当時の経営方針の一つです。わたしたちは、この信念に基づき創業からの100有余年、「品質を作り、品質を売る」という“モノづくり”を実直に行ってまいりました。

三ツ星ベルトは、経済価値と環境・社会価値のトレードオンを目指し、非石油由来の原材料比率を高めた次世代ベルトや、風力発電機に使用される高機能タイミングベルトなど、当社製品の提供を通して、脱炭素社会の実現をはじめとする社会課題の解決に貢献してまいります。

■ 目指す姿

“カガク”のチカラで人々の快適な暮らしを支える会社

わたしたち三ツ星ベルトの製品を直接目にすることは多くないかもしれませんが、ですが、三ツ星ベルトの製品は、自動車や二輪車、プリンタなどのオフィス機器、ATM、レジスター、または洗濯機や製パン機等の各種家電など、わたしたちの暮らしのすぐそばで今日も静かにその役割を果たし続けています。

三ツ星ベルトグループは、“カガク”の持てるチカラの深化に挑み、チャレンジする精神を重んじることでイノベーションを生み出し、人々の快適な暮らしを支えつづける会社であることを目指しています。

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 ～’21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

パリュチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

三ツ星ベルトの理念体系（2/2）

■ 行動のよりどころ、わたしたちの約束

社訓：

今日に誇りを持ち、明日に希望を託し行動する

三ツ星ベルトは、従業員が“今日に誇りを持ち、明日に希望を託し行動する”ことが、一人ひとりの従業員の成長と企業の持続可能性を実現するための源泉であると考えています。

■ 三ツ星ベルトグループ 行動基準の改定

VUCAの世界と呼ばれるこの時代にあって、企業として変わらずに大切にすべき価値観がある一方で、激しく変化を続ける社会情勢・環境に適應するため、変えていくべきものもまた多数存在すると三ツ星ベルトは考えています。

当社は、従来の行動基準を企業が果たすべき役割が大きくなった現在においても齟齬がないものとするべく、2022年11月に国連グローバルコンパクトが掲げる10原則などを鑑みながら大幅な改定を行いました。この改訂版行動基準は、当社が『人を想い、地球を想う』企業として存在し続けるための、グループ全従業員の“わたしたちの約束”と位置づけられています。

この行動基準は、英語、中国語のほか合計5か国の言語に翻訳され、三ツ星ベルトグループの全ての従業員に周知されるとともに、社員一人ひとりが正しくこの行動基準を理解することを目的に、各部課単位での読み合わせ会なども実施しております。

三ツ星ベルトグループ 行動基準（2022年11月改定）

1. コンプライアンス

- 三ツ星ベルトグループが事業活動を行うそれぞれの国・地域における法令や社会規範を守り良識に沿った行動をします。
- 企業倫理を尊重し、社内規程を遵守していかなる不正も行いません。
- コンプライアンス徹底のための方針や体制、通報制度などの仕組みに基づいて業務・教育を遂行します。

2. 人権・労働

- 人格・人権の保護を支持、尊重します。
- 人種、国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、宗教、信条、民族、移民、障がいの有無、貧困者、配偶者や子の有無その他いかなる理由があっても差別は行いません。
- 虐待、体罰、あらゆる形態のハラスメント（嫌がらせ）などの非人道的な扱いや、個人の尊厳を傷つける行為は行いません。
- 法令を遵守した適正な賃金を支払います。
- 法令に基づいた労働時間を遵守し、休暇を確保します。
- あらゆる形態の強制労働を行いません。
- 身分証明書または労働許可証の不当預かりや、預託金の不当徴収を行いません。
- 法定就労年齢未満の児童は雇用しません。従業員の結社の自由と団体交渉の権利を保証します。

3. 環境

- 環境上の課題に対する継続的な改善を行う環境マネジメントシステムを確立し、省資源や省エネルギーなどに取り組みます。
- GHG(温室効果ガス)の排出量削減に取り組みます。
- 廃棄物の削減やリサイクルに取り組みます。
- 排水・汚泥・排気の管理及び発生量の削減に取り組みます。
- 水資源の有効活用や水リスクへの対応に取り組みます。
- 製品中の化学物質を管理し、取扱量の把握、行政への報告などを行います。
- 製品及び製造工程などにおいて法令で禁止された物質を使用しません。
- 原材料を含む事業活動全般において、生物多様性の保全に配慮し、人と自然が共生する持続可能な社会の実現に取り組みます。

4. 公正な企業活動

- 商道德と自由競争を尊重した公正な取引を行い、私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法（不正競争行為、優越的地位の濫用など）は行いません。
- 現地行政や公務員、また顧客や仕入先と適切な関係を構築し、腐敗を防止します。
- 反社会的勢力・団体とのあらゆる関係を排除します。

- 第三者の特許権、著作権、商標権などの知的財産権を尊重します。
- 苦情や相談の窓口を設け、通報者保護を保証します。
- インサイダー取引を行いません。
- 会社と利益相反となり得る状況を回避するよう行動します。

5. 品質

- 経営基本方針「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」のもと、顧客に対する品質保証が最優先であることを認識して、業務を遂行します。
- 安全で優れた品質の製品・サービスを提供します。
- クレームには誠意をもって直ちに対応します。

6. 安全衛生

- 誰もが安心して働けるよう、従業員の安全衛生、健康についての適切な管理を行い、事故、災害を未然に防止します。
- 安全衛生関係法令および安全衛生管理規程を遵守します。
- リスクアセスメントおよび安全衛生教育を通じて、労働災害を未然に防止します。

7. 情報セキュリティ

- 守るべき情報資産を明確にしてそれらを適切に管理・保護します。
- 情報セキュリティに関する法令及び契約上のセキュリティ要求事項を遵守します。
- 情報セキュリティに関連する事故が発生した場合は、その原因を迅速に究明し、被害を最小限にとどめるとともに再発を防止します。

8. サプライチェーン

- 仕入先に対して、当社行動基準に準じたCSRガイドラインを展開し、サステナビリティの取り組みの浸透・普及を徹底します。
- 人権・環境などの社会問題を引き起こす原因となりうる原材料の使用による地域社会への影響を考慮した調達活動を行うこととし、懸念のある場合には、使用回避に向けた施策を行います。

9. 地域社会との共生

- 地域社会とのパートナーシップを大切にします。
- 地域社会の課題解決につながる社会貢献活動を行います。

10. 情報開示

- ステークホルダーに対し、適時適切に情報を開示して、企業活動の透明性を確保します。

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 ～'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

TOP MESSAGE

三ツ星ベルト株式会社

代表取締役社長 池田 浩



「人を想い、地球を想う」企業で あり続けるために

はじめに

2021年6月に社長に就任し、2年が経ちました。社長就任当時は、新型コロナウイルス感染拡大の真ただ中にあり、まずは、従業員の安全確保と事業活動継続の両立を実現する体制確保に取り組まざるを得ない状況でした。出張もできずに苦労しましたが、そのおかげでウェブ会議やリモートワークの導入など、時間や場所にとられない新しい働き方の導入も進みました。人的資本経営実践の観点からも、そうした良い副作用もあったように感じています。

スタートはあわただしかったものの、社長就任の内定後すぐに中期経営計画の見直し議論を進め、6月の就任時には新体制の明確な方針が確立されていました。『21中期経営計画の見直しについて』では、当社としては初めて、中長期での目指す方向性を「2030年度の“ありたい姿”」として示し、「変化にぶれない企業体質の確立」として5項目のKPIとともに目指すこととし、“ありたい姿”実現のための各取り組みを現在進めているところです。

2030年度の“ありたい姿”

「変化にぶれない強い企業体質の確立」

基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献できる企業づくりを推進し、全てのステークホルダーに信頼される経営を目指します。

収益性	売上高：1,000 億円 営業利益額：130 億円
資本効率性	ROE：10%
株主還元 設備投資	中長期的な企業価値向上を図る資本政策
人財戦略	変革を推進する人材の育成
ESG	持続可能な社会の実現への貢献 (社会的・経済的価値の向上)

「チャレンジしよう。」

各取組みのアウトカムを生み出し、“ありたい姿”を実現するには、まず、企業としての土台作り、企業風土の改革が大切であると考えています。当社は、1919年に木綿製伝動ベルト(平ベルト)の生産から事業をスタートさせ、その後いくつかの事業ポートフォリオの変遷を経て今の事業体制になっていますが、新規参入が難しいニッチな業界であることから、これまでの当社の企業風土は、事業計画、財務政策、情報開示または従業員の気質も含めて保守的なものであったと感じています。まずはこれを変えていこうとしています。社長の就任以来、グループ従業員全員にかけ続けている言葉は、「チャレンジしよう」です。保守的な目標を達成するよりも、たとえ目標が達成できなかったとしても、より高みを目指してチャレンジングに取り組んだ姿勢が評価される、そんな企業風土を醸成したいと考えています。

新しい企業風土を醸成していくためには、従業員とのエンゲージメント向上も大きなキーポイントになると考えています。昨年度末、当社は、企業理念や経営基本方針などを一つの“理念体系”として整理しました。この理念体系では、基本理念を“わたしたちの価値観”、経営基本方針を“果たすべき使命”、社訓を“行動のよりどころ”と位置付けましたが、こうした価値観を従業員と共有・共感することで、エンゲージメントの向上を図りたいと考えています。

“選び、選ばれる”企業であるために

社長就任後に従来から大きく方向転換したことの一つが、ESG経営の深化です。これまでの当社は、“事業活動の外側で社会貢献を行う”といった従来型のCSR活動しか行えていませんでした。企業が果たすべき役割が大きくなった現代においては、経済価値と環境・社会価値のトレードオンを目指し、また、当社がどのような価値を社会に提供できるのかをしっかりと示す必要があるものと認識しています。そのため、私自身が委員長を務めるサステナビリティ推進委員会を立上げ、また、サステナビリティの課題に対応する専門部署を設置するなど、サステナビリティの推進体制を強化することからはじめました。

サステナビリティ推進委員会は、四半期に1回といった開催頻度が一般的なようですが、当社は原則月に1回開催しています。当社のESGの取り組みが遅れていたことは重々認識しており、全てのステークホルダーから“選び、選ばれる”企業であるためには、私自身が不退転の覚悟で臨み、ESG経営を強く推進していかなければなりませんでした。サステナビリティ推進委員会の設置初年度であった2022年度では、まず、当社マテリアリティ特定の議論からはじめ、特定したマテリアリティおよびそのKPI達成に向けた様々な取り組みを前に進めることができました。

環境に関する取り組み、なかでも気候変動に関しては、2050年カーボンニュートラル達成に向け、2023・2025・2030年度の間目標を設定し、太陽光発電システム設置事業所の拡大や、重油に比べて環境負荷の少ないLNGガスへの燃料切り換えなどの取り組みを強化しています。

また、2022年12月には、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)への賛同を表明するとともにTCFDコンソーシアムにも入会し、ようやく、同提言に沿った情報開示も行えるようになりました。

脱炭素の取り組みと並行して、循環型経済実現への貢献のため、環境配慮型製品の開発強化にも注力しています。当社はこれまで、自動車の燃費改善や、設備の省エネルギーに貢献できる種々のベルトを開発・販売していましたが、現在、そうしたこれまでの製品にサーキュラーエコノミーの観点を加えた次世代型のベルトの開発を進めています。具体的には、非化石由来およびリサイクル材料の使用比率を2030年までに70%にまで高めたベルトを開発し、同コンセプトの製品ラインアップを順次拡大していきたいと考えています。

社会に関する取り組みでは、先に触れました通り、変革を推進する人材の育成を進めます。人の力を最大限に発揮できる人事制度、教育研修制度、職場環境の充実を図るとともに、多様性を尊重した新しい発想と変革を恐れないチャレンジ精神を大切にする企業風土の醸成を目指します。また、人権に関する取り組みも急ピッチで進めているところです。昨年度までに、人権方針の策定が完了し、今年度はサプライチェーンを含めた人権デューディリジェンスおよび調達ガイドラインの改訂に取り組んでいます。人権に係る取り組みは、持続可能なビジネスを展開し、社会に貢献するための必須条件であると考えています。

ガバナンスに関する取り組みでは、昨年度に当社として初めての女性取締役が就任し、取締役会における社外取締役比率が1/3以上になるなど、強固なコーポレートガバナンス体制の構築に取り組んでいます。また、ステークホルダーエンゲージメントの向上を目指し、積極的な情報開示に努めていますが、情報開示に関しては、これまでの当社の取り組みには反省すべき点が多くあったと認識しています。私たちは、ステークホルダーの皆様にもっと深く三ツ星ベルトグループのことを知っていただく努力をしなければなりません。

例えば、先述の理念体系では、経営基本方針「高機能、高精度、高品質な製品の提供を通して社会に貢献する」を、当社の「果たすべき使命」と位置付けました。当社の製品は、一般消費者の目には付きにくいものではありませんが、自動車・二輪車、農業機械・工作機械などの各種産業機械、風力発電機などのほか、洗濯機やホームベーカリー、プリンタ・複写機、駅務機器、ATM、自動販売機、あるいは温水洗浄便座など、本当に大小様々なベルトが、目に見えないところで世界の人々の快適な暮らしを支えています。しかし、こうした“三ツ星ベルトグループが社会に貢献できる価値”をステークホルダーの皆様にお伝えできていないように感じています。当社のことを深く知っていただくことで、ステークホルダーの皆様と価値観を共有し、持続可能な社会の実現に向け、協働いただける関係構築を目指したいと考えています。

2030年度の“ありたい姿”実現に向けて

今年は、'21中期経営計画の最終年度となります。'21中期経営計画の3か年においては、新型コロナウイルス感染症にはじまり、ロシアによるウクライナ侵攻、原材料・物流費の高騰、半導体不足による顧客の稼働率低下、世界的なインフレと金利の上昇による景気後退懸念など、非常に厳しい事業環境ではありましたが、為替が期初想定よりも円安に推移していることもあり、目標値よりも高い業績となることを見込んでおります。当中期経営期間においては、自動車用ベルトも含め堅調な推移となりましたが、2030年度の“ありたい姿”実現に向け、2024年度からの新中期経営計画では、新規事業を含めた新たな市場獲得に取り組んでいかなければなりません。

自動車用ベルト分野では、自動車の電動化をチャンスと捉え、非内燃機関用ベルトの拡販に取り組んでいます。電動化に伴い内燃機関用のベルト需要は今後確実に減少しますが、電動車にも使用されるEPB、EPSなどの電動ユニット用ベルトや、または二輪車・後輪駆動用ベルトの販売拡大などにより、2030年度の自動車用ベルト分野では、2022年比で“売上減”ではなく、“売上増”を目指しています。

一般産業分野においては、軽量で騒音が小さく、油を使用しないベルトの優位性により、各分野でのチェーンからの置き換え需要獲得などを進めています。また、大型農業機械市場においては、欧米市場での当社シェアは現状では決して高いものではなく、同市場におけるシェア拡大は当社にとって大きなチャンスであると捉えています。さらには、サステナブル原材料の使用比率を高めるなどした環境価値の高い次世代ベルトの需要は今後ますます高くなるものと予測され、こうしたベルトの販売拡大により、事業活動を通じた環境価値の向上を目指します。



また、その他の当社が取り組んでいる事業分野では、それらの事業に対して、M&Aなどを含め、シナジー効果が期待できる施策を積極的に取り組んでいく考えです。

当社のESG経営は端緒についたばかりですが、この先50年、100年先も持続可能な社会の実現に貢献できる会社であり続ける決意です。当社はこれからも、基本理念「人を想い、地球を想う」のもと、ステークホルダーの皆様と積極的な対話を行い、事業活動を通じて環境・社会価値向上に資する取り組みを推進し、豊かな未来への発展を目指してまいります。引き続き当社事業活動へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年9月
代表取締役社長

池田 浩

長期ビジョン

三ツ星ベルトは、2022年5月に「'21中期経営計画の見直し」および「2030年度の“ありたい姿”」を発表しました。「持続可能な社会の実現」への貢献を目指し、事業活動を通じた環境価値・社会価値の向上に努めてまいります。

2023年度(中期経営計画最終年度)のKPI(見直し前)

収益性

■ 売上高：	750 億円
■ 営業利益額：	83 億円 (11%以上)

資本効率性

- (KPI未設定)

設備投資額

■ 3年間の設備投資枠：	150 億円
--------------	--------

株主還元

- 1株当たり配当金： 54 円以上
(※連結配当性向： 35 %)
- 3年間平均連結総還元性向： 50 %

ESG

- CO₂排出量削減目標値： 20 % 以上
(2013年度比)

想定為替レート

- 1 USD= 105 円
- 1 EUR= 115 円

2023年度のKPI(見直し後) “2030年度の「ありたい姿」の 実現に向けた基盤強化期間”

収益性

■ 売上高：	800 億円
■ 営業利益額：	83 億円

資本効率性

- ROE： 8 %
- 政策保有株式売却額： 15 億円 以上
(中計期間中)

設備投資額

■ 3年間の設備投資枠：	230 億円
--------------	--------

株主還元

- 配当性向(2021年度)： 65 %
- 配当性向(2022年度)： 100 %
- 配当性向(2023年度)： 100 %

ESG

- CO₂排出量削減目標値： 22 % 以上
(2013年度比)

想定為替レート

- 1 USD= 115 円
- 1 EUR= 125 円

2030年度のありたい姿

“変化にぶれない強い企業体質の確立”

収益性

- 売上高： 1,000 億円
既存事業： 850~900 億円
新規事業： 100~150 億円
- 営業利益額： 130 億円

資本効率性

- ROE： 10 %
- 財務体質の強化から、資本効率の向上への進化

株主還元／設備投資

“中長期的な企業価値向上を図る資本政策”

- 持続可能な社会の実現につながる研究、次世代を担う高機能、高精密、高品質な製品開発・生産システムへの積極的な投資
- 成長投資への原資を確保したうえでの株主還元の充実

人財戦略

“変革を推進する人材の育成”

- 「人」の力を最大限に発揮できる人事制度、教育制度、職場環境の充実
- 多様性を尊重した新しい発想、変革を恐れないチャレンジ精神を大切にする「企業風土」の醸成

ESG

“持続可能な社会の実現への貢献”(社会的・経済的価値の向上)

- 環境に関する社会的課題への積極的な取り組み
→「2050年カーボンニュートラルへ向け」
2030年度 CO₂排出量削減目標値：2013年度比で46%
- ESG評価 グローバル基準最高ランクの取得

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

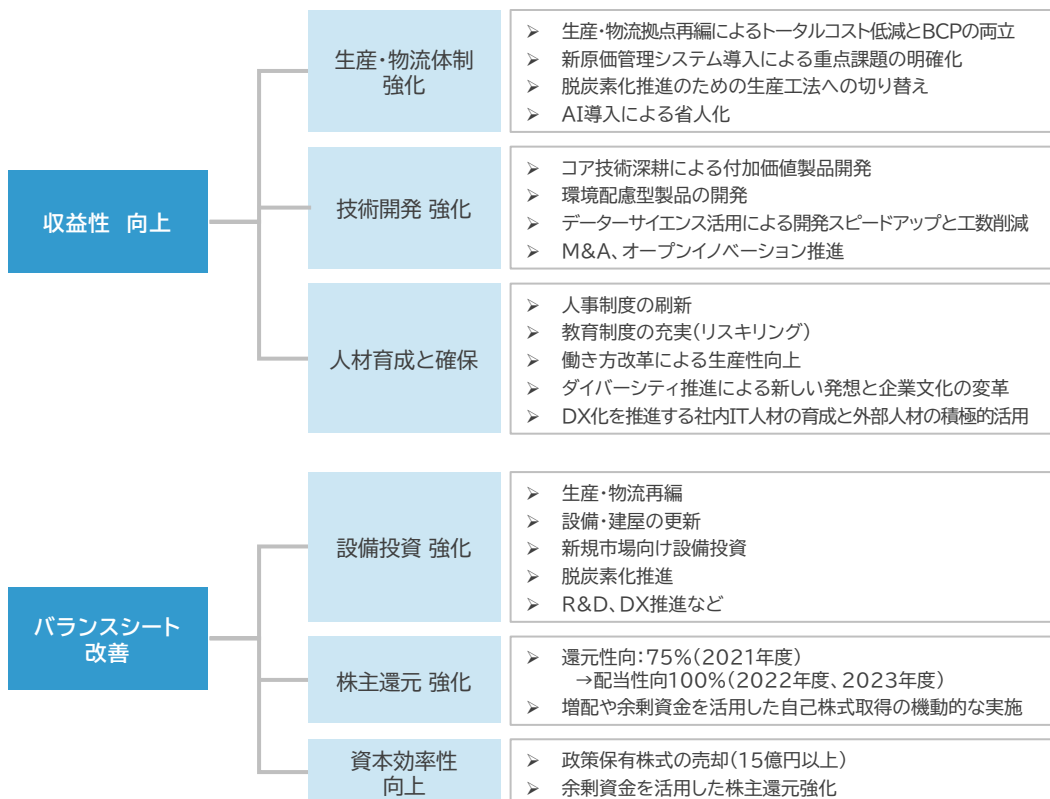
ガバナンスデータ

Appendix

'21中期経営計画(見直し後)

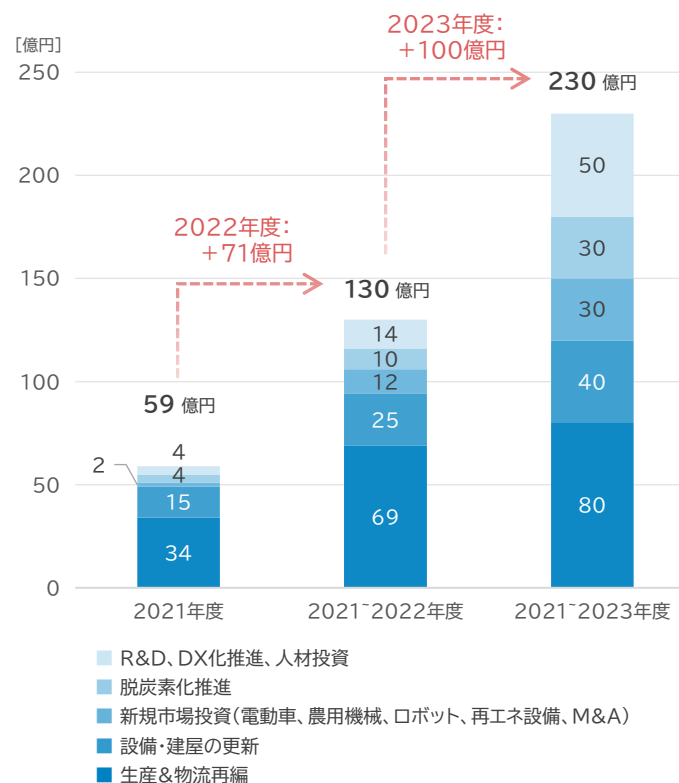
■ 資本政策の位置付け

企業価値の向上のため、収益性向上とバランスシート改善を資本政策の両輪とし取り組み、2030年度のありたい姿の実現を目指しています。



■ 設備投資

'21中期経営計画の見直しに伴い、3年間設備投資枠を当初設定の150億円から230億円へ、80億円増額しております。経営環境の変化に対し機動的に見直しを行いつつ、企業価値向上のための積極的な投資を進めています。



Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

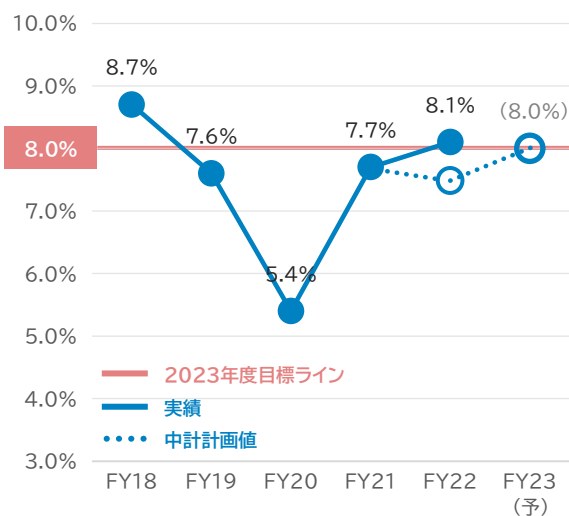
ガバナンスデータ

Appendix

'21中期経営計画(見直し後)の進捗状況

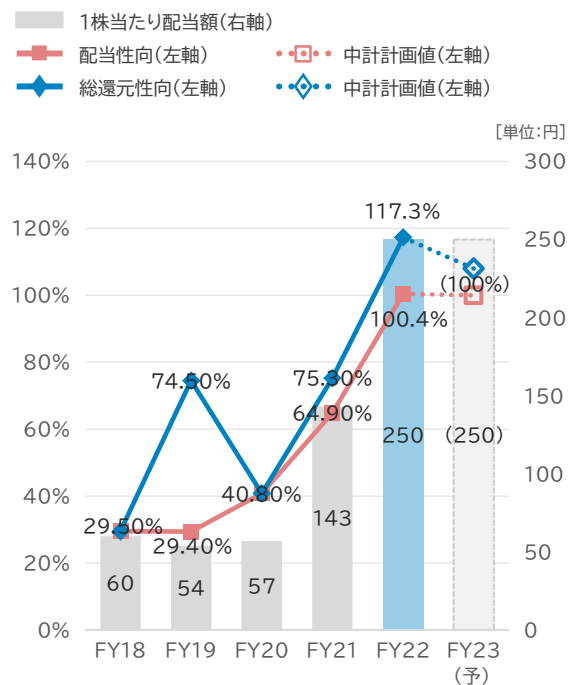
ROE

2022年5月に発表いたしました「'21中期経営計画の見直し」では、2022年度のROE目標を7.5%に設定していました。2022年度は、新型コロナウイルスのパンデミックによる影響は2021年度に比べ限定的なものとなりましたが、原材料、輸送費の高騰やまたロシアによるウクライナ侵攻など、当社を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いており、当社が、2030年度のありたい姿として掲げる“変化にぶれない強い企業体質の確立”が今まさに求められているものと認識しています。まだ道半ばではあるものの、2030年度のありたい姿の実現に向けて取り組みを進めた結果、2022年度のROEは8.1%となり、目標の7.5%を無事達成することができました。



配当性向、総還元性向

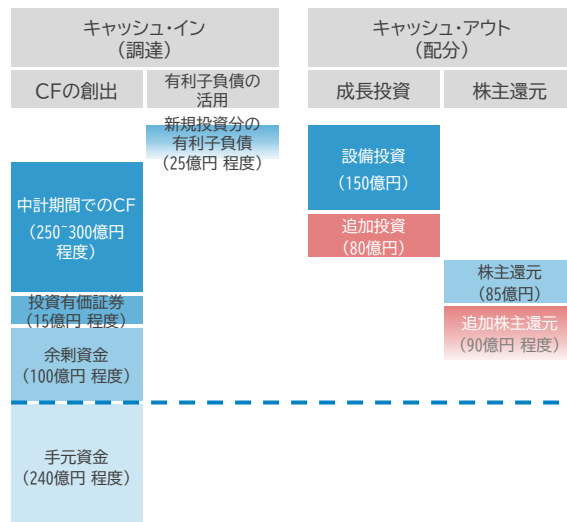
企業価値向上を目指したバランスシート改善の取り組みの一つとして、余剰資金を活用した自己株式取得や増配などの対応を機動的に実施しております。また、資本効率性の向上のため、政策保有株式の売却も進めており、いずれも目標に向かって改善が進んでいます。



キャッシュの調達と配分(イメージ)

バランスシートの改善策を反映し、図に表したのが下表となります。'21中期経営計画期間中の3年間、キャッシュをためない方針としています。前ページで述べた通り、設備投資および株主還元の両方の強化を図ります。

※ '21中期経営計画期間中(2021年4月~2024年3月)のキャッシュの調達と配分のイメージ図です。今後の資本政策を決定づけるものではありません。



Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 ~'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

'21中期経営計画(見直し後)の進捗状況

■ 自動車部品分野

戦略

- ✓ 電動化(EV化)への対応
- ✓ 補修市場における拡販

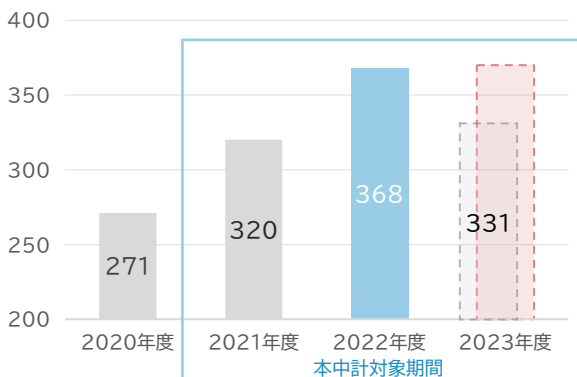
施策

- ✓ ハイブリット車向け補機駆動用高付加価値システム製品の拡販
- ✓ 四輪車両制御装置(EPS, EPB, PSD)の電動化対応製品の拡販
- ✓ 二輪車・多用途四輪・パーソナルモビリティ向け後輪駆動用製品の拡販
- ✓ 新興国を中心とした四輪車・二輪車向け海外補修市場への拡販



売上増加目標額

[単位:億円]



■ 実績 ■ 中計計画値 ■ 見込み

■ 一般産業用分野

戦略

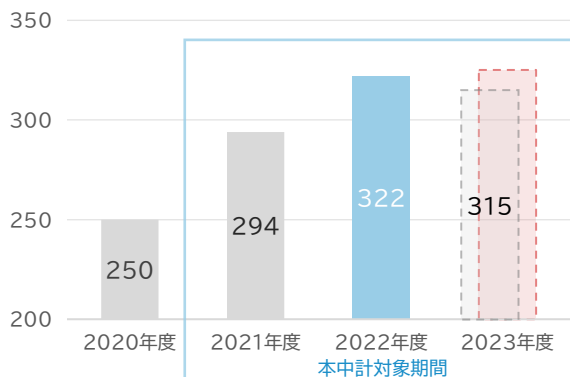
- ✓ 食へのサポート
- ✓ 自動化への対応
- ✓ 環境への対応
- ✓ 省エネ化への対応

施策

- ✓ 農業機械向け高付加価値製品の開発及び拡販
- ✓ ロボット・物流機器向け製品の開発及び拡販
- ✓ クリーンエネルギー市場向け(風力発電機など)製品の拡販
- ✓ 高効率な製品の開発及び拡販

売上増加目標額

[単位:億円]



■ 実績 ■ 中計計画値 ■ 見込み

■ 搬送製品分野

戦略

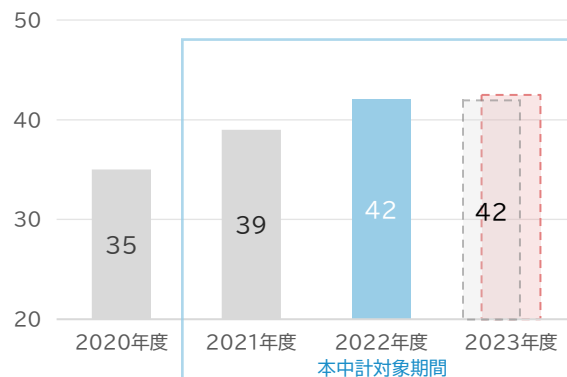
- ✓ 食の安全への対応
- ✓ 流通の効率化への対応
- ✓ 環境配慮型製品への対応
- ✓ 海外市場への拡販
- ✓ 情報通信技術を利用したソリューション事業の展開

施策

- ✓ 食品業界の衛生管理に対応する高機能ベルトの拡販
- ✓ 物流業界向け高付加価値製品の拡販
- ✓ バイオマス由来・リサイクルなどの原材料を使った製品開発
- ✓ 東南アジア市場への拡販
- ✓ 部品管理Webアプリケーションサービス「Tailor-note」の提供

売上増加目標額

[単位:億円]



■ 実績 ■ 中計計画値 ■ 見込み

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

'21中期経営計画(見直し後)の進捗状況

■ 樹脂製品分野

戦略

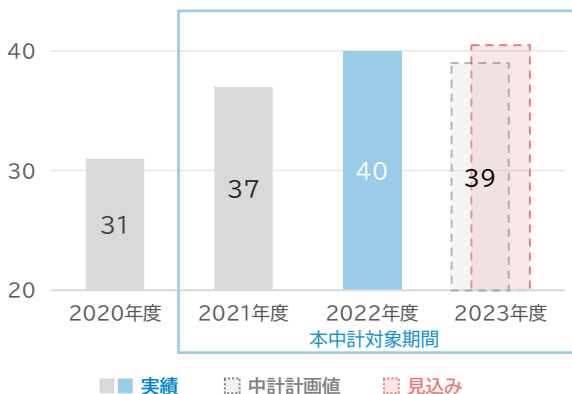
- ✓ 軽量化、省エネ化への対応
- ✓ メンテナンス軽減化への対応
- ✓ 機能部品化への対応
- ✓ 環境への対応
- ✓ 食の安全への対応

施策

- ✓ 金属の代替品として多様な分野への用途開発と拡販
- ✓ 高機能樹脂の用途開発と拡販
- ✓ 発泡成形を用いたフレームレス構造やベース部品の拡販
- ✓ バイオベースやリサイクルを考慮した製品開発
- ✓ 食品業界の衛生管理に対応する高機能樹脂素材の拡販

売上増加目標額

[単位:億円]



■ 建設資材分野

戦略

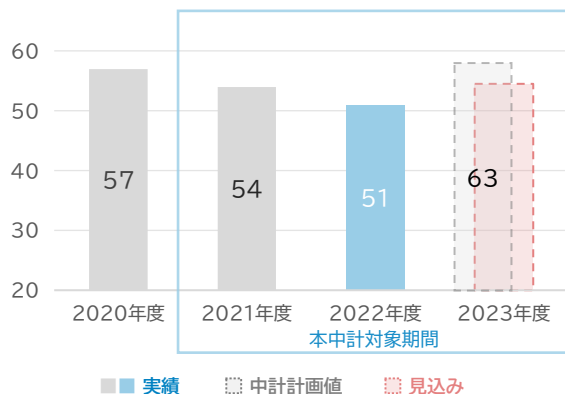
- ✓ 水資源保全への対応
- ✓ 自然環境保護への対応
- ✓ 建物の長寿命化への対応

施策

- ✓ 廃棄物及び汚染土処分場遮水工事市場への拡販
- ✓ 農業用貯水池築造及び改修市場への拡販
- ✓ 河川の防災・減災関連市場への拡販
- ✓ ビオトープ・緑化推進、生物多様性保護市場への拡販
- ✓ 建物屋根・屋上防水市場への拡販

売上増加目標額

[単位:億円]



■ 開発製品分野・新規分野

戦略

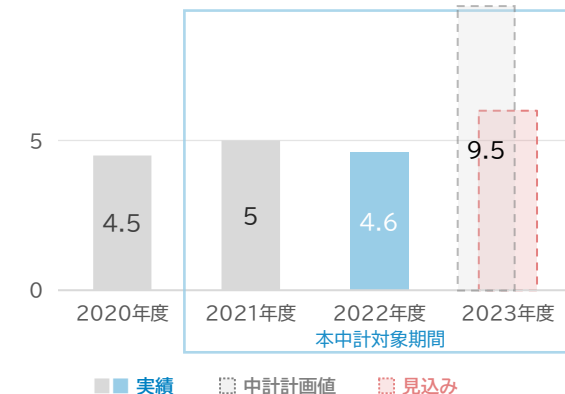
- ✓ 省エネ化、クリーンエネ化への対応
- ✓ 情報化、電動化、自動化への対応

施策

- ✓ モビリティ、モバイル機器市場への金属ナノ粒子の拡販
- ✓ 太陽光発電、電源・電源装置市場への高性能回路基板の販売
- ✓ 高速大容量通信、モビリティ市場への高性能回路基板の拡販
- ✓ 半導体、電子部品業界への導電、抵抗、絶縁ペーストの拡販

売上増加目標額

[単位:億円]



Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix

'21中期経営計画(見直し後)の進捗状況(2022年度業績)

2022年度の概況

2023年3月期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和や解除が進み、回復基調にて推移いたしました。一方、サプライチェーンの混乱やロシアによるウクライナ侵攻の長期化による原材料・エネルギー価格の高騰、インフレ抑制による金利の上昇、急激な円の為替変動など経済の先行きは、依然として不透明で予断を許さない状況が続いておりましたが、2023年3月期の当社グループの業績は、売上高82,911百万円(前連結会計年度比10.7%増)、営業利益9,030百万円(前連結会計年度比18.2%増)、経常利益10,471百万円(前連結会計年度比22.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は7,071百万円(前連結会計年度比10.8%増)となりました。

「財務体質の強化から、資本効率の向上への深化を意識した経営へ」を掲げ、'21中期経営計画(見直し後)における2023年度KPIおよび2030年度の「ありたい姿」にて示すROE:10%の達成を目標とし、また、PER:1.0倍以上の維持、更なる向上を目指します。

2023年度のKPI (見直し前)

収益性

■ 売上高：	750 億円
■ 営業利益額：	83 億円 (11%以上)

資本効率性

■ (KPI未設定)

株主還元

■ 1株当たり配当金：	54 円以上 (※連結配当性向：35%)
■ 3年間平均連結総還元性向：	50%

2023年度のKPI (2022/5/13 見直し)

収益性

■ 売上高：	800 億円
■ 営業利益額：	83 億円

資本効率性

■ ROE：	8%
■ 政策保有株式売却額：	15 億円 以上 (中計期間中)

株主還元

■ 配当性向(2021年度)：	65%
■ 配当性向(2022年度)：	100%
■ 配当性向(2023年度)：	100%

2022年度実績

収益性

■ 売上高：	829 億円
■ 営業利益額：	90 億円

資本効率性

■ ROE：	8.1%
■ 政策保有株式売却額：	276 百万円 (2021, 2022年度)

株主還元

■ 配当性向(2021年度)：	65%
■ 配当性向(2022年度)：	100%

Introduction

三ツ星ベルト・ブランドストーリー

三ツ星ベルトのあゆみ

事業概要

理念体系

トップメッセージ

ビジョンと戦略 〜'21中期経営計画

ESG経営の深化

サステナビリティの推進体制

マテリアリティ

ESGに係るこれまでの取り組み

E:環境

基本方針と活動実績

環境ガバナンス体制

脱炭素社会実現に向けた取り組み

TCFD提言に基づく情報開示

資源循環社会実現に向けた取り組み

生物多様性保全の取り組み

環境データ

S:社会

基本方針と活動実績

人財戦略

人権の尊重

バリューチェーンマネジメント

社会貢献活動

社会データ

G:ガバナンス

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

ガバナンスデータ

Appendix